

平成 29 年度学生による授業評価の結果 !

学生による授業評価を平成 28 年度から実施しています。学生による授業評価は、教員にとっては自分が行なう授業に対して学生がどのように評価しているかを自ら知ることで、授業の改善へと直接結びつけていくものです。また、学生にとっては、授業に関する要望を教員に伝えるだけでなく、授業に対する自らの取り組みを検証する手段でもあり、学生自身の学習態度の改善につながっていくものです。講師や教員による授業が終わるたびに学生への授業

評価アンケートを実施しました。質問項目は自己評価について 5 項目、授業評価について 10 項目とし、5 段階評価尺度を用いました。平成 29 年度は同じ質問用紙を用い、4 段階評価尺度に変更しました。評価基準を変更したことで、介護福祉科、看護科領域ごとの結果から、その教育活動の特徴や傾向が見えてきました。これらの結果を基にして、組織的に責任をもって、授業改善について取り組むとともに、学生からの意見・要望をフィードバックするなど、学校全体として教育の質的向上に努めていきたいと思います。(六日市学園 FD 担当者)

平成29年度 学生による授業評価(看護科)

回答した学生数

評価基準) 4:非常にあてはまる 3:ややあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:全くあてはまらない

1 年生 N=12 、2 年生 N=23 、3 年生 N=28

	分野	基礎	専門基礎	専門 I	専門 II	統合
自己評価	授業に目的を持って臨んだか	3.3	3.2	3.8	3.2	3.1
	予習したか	2.9	3.0	3.2	3.1	2.9
	復習したか	2.9	3.0	3.1	3.1	3.0
	授業中に質問をしたか	3.1	3.0	3.4	3.1	3.0
	疑問を解決する努力をしたか	3.3	3.1	3.3	3.2	3.2
	平均	3.1	3.1	3.4	3.1	3.0
授業評価	学習目的、テーマは明確だったか	3.4	3.3	3.6	3.4	3.3
	学習内容は理解しやすかったか	3.3	3.2	3.6	3.3	3.8
	授業内容は多くもなく少なくもない	3.6	3.2	3.4	3.3	3.2
	教員の一方的な授業ではなく学生も参加できたか	3.5	3.2	3.6	3.3	3.7
	多様な学習方法で授業を展開したか	3.7	3.2	3.5	3.3	3.3
	教員が提示した資料は理解しやすかったか	3.5	3.3	3.5	3.3	3.7
	教員は学生を尊重した態度で授業を展開したか	3.5	3.2	3.6	3.3	3.3
	教員は学生の反応を見ながら授業を展開したか	3.5	3.2	3.7	3.8	3.4
	教員の声は明瞭で聞きとりやすかったか	3.4	3.2	3.6	3.4	3.3
	授業全体に対する充実感や満足感はあったか	3.4	3.2	3.6	3.4	3.3
平均	3.5	3.2	3.6	3.4	3.4	

結果

1. 自己評価の質問に、分野の差はなかった。専門分野 I で「授業に目的をもって臨んだか」は 3.8、「授業中に質問したか」で、3.4 と授業に関心を寄せている傾向が認められた。

2. 「多様な学習方法で授業を展開したか」の質問項目で、基礎分野では、が 3.7 と他の分野より高かった。基礎分野は大学等からの講師による授業が多いことに起因する

3. 「教員は学生の反応を見ながら授業を展開したか」の質問項目で、専門Ⅰ分野 3.7、専門Ⅱ分野 3.8 と高かった。
4. 統合分野で、「学習内容は理解しやすかったか」 3.8、「教員の一方的な授業でなく学生も参加できたか」 3.7、「教員が提示した資料は理解しやすかったか」 3.7 と高かった。統合分野は3学年での授業が多く、学習姿勢が反映しているとい

える。授業内容も精選されわかりやすい授業展開をされていたことがわかる。

平成29年度 学生による授業評価(介護福祉科) 回答した学生数
1年生 n=18 2年生 n=16

	項目\領域	回答した学生数			
		人間と社会	介護	こころとからだのしくみ	医療的ケア
自己評価	授業に目的を持って臨んだか	3.3	3.3	3.1	3.5
	予習したか	2.5	2.6	2.4	3.1
	復習したか	2.8	2.9	2.8	3.4
	授業中に質問をしたか	2.6	2.7	2.3	3.3
	疑問を解決する努力をしたか	3.1	3.1	3.0	3.5
	平均	2.9	2.9	2.7	3.4
授業評価	学習目的、テーマは明確だったか	3.5	3.4	3.3	3.5
	学習内容は理解しやすかったか	3.5	3.3	3.0	3.2
	授業内容は多くもなく少なくもない	3.4	3.3	3.2	3.3
	教員の一方的な授業でなく学生も参加できたか	3.5	3.4	3.0	3.5
	多様な学習方法で授業を展開したか	3.5	3.4	3.1	3.5
	教員が提示した資料は理解しやすかったか	3.6	3.5	3.2	3.5
	教員は学生を尊重した態度で授業を展開したか	3.7	3.5	3.1	3.6
	教員は学生の反応を見ながら授業を展開したか	3.6	3.5	3.3	3.5
	教員の声は明瞭で聞きとりやすかったか	3.6	3.4	3.1	3.4
	授業全体に対する充実感や満足感はあったか	3.5	3.4	3.1	3.3
平均	3.5	3.4	3.1	3.4	

結果

- 自己評価では、医療的ケアは全て3以上であり、取り組み姿勢が他の領域より高い。
- こころとからだのしくみで「授業に目的をもって臨んだか」は平均値が3.1でやや低値で苦手意識に起因している。
- 人間と社会の「学生を尊重した態度で授業を展開した」が3.7と高い。授業内容が、身近で、取り組みやすい科目である。
- 医療的ケアも「学生を尊重した態度で授業を展開した」が3.6と授業評価の中では高い。

まとめ

研究授業により、両科ともに学生の授業に関する関心を高める方法の検討、学生の反応の引き出し方など授業方法について、あるいは専門分野等の授業方法の工夫について検討していくことを課題とした

28 年度卒業生インタビュー

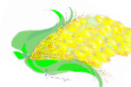
18 期生 中野祥平さん 六日市病院2

階病棟勤務



学校での学んだ知識は現場に出てしっかり活かされています。循環動態など特に大事で、呼吸不全や心不全患者様が多いので、常時生かされます。血圧がなぜ下がるのかなど、基本的なところをしっかりと学んでください。さらに臨床でいろいろ

なパターン of 患者を受け持つため、学校の学びの大切さを実感しています。毎日が勉強の日々を楽しんでいます。成長していきたいと思います



29 年度卒業生インタビュー

20 期生 土田志穂さん

六日市病院 2 階病棟勤務

皆さんお元気ですか。卒業して 4 か月余りたちますが、楽しく仕事させていただいています。スタッフのみなんで協力して仕事も定時で終わるよう頑張っています。家でも勉強するゆとりもあって、楽しくしています。皆さん無駄はありません。頑張ってください。



ウォークラリーを体験して

平成 30 年 5 月 19 日(土)島根県浜田市で、第 31 回浜田市ウォークラリー大会が開催され、当校から、介護福祉科 1-2 年生 30 名、看護科 1 年生 15 名が参加した。朝から小雨の中、西川病院出発点に 18 チームが 2 分間隔で出発し、町なみやお寺などを周り、チームで考えゲームで笑い、友達と力を合わせてゴールしました。その体験の学びを紹介します。



看護科 1 年生 A さん

はじめに

今まで生きてきた中で色々なイベントの経験をしてきたと思うが、思えば本格的なウォークラリーに参加したのは今回が初めてだったのではないかと思います。かつて毎日のように車で通っていた浜田だったが、学校に通う以外で来ることは無く、浜田という街を自分の足で散策し歴史や町並みを改めて知る機会になるこ

とを楽しみに参加した。また、ウォークラリーをチームで参加することによりどんな効果が生まれるのか意識して取り組むことにした。

ウォークラリーに参加し得たもの

ウォークラリーに参加するにあたり、ウォークラリーの歴史を調べてみた。ウォークラリーの始まりは、1974年。当時、静岡県の三ヶ日青年の家の指導主事だった渡辺佳洋氏がオリエンテーリングとカーレースにヒントを得て考案。その後、(財)日本レクリエーション協会がレクリエーション・プログラムのひとつとして全国的な普及に取り組んだ。本格的には、1984年5月20日から全国47都道府県一斉ウォークラリー大会が毎年開催されるようになった。1984年といえば日本が世界一の長寿国になった年でもある。そういった経緯からも日本では健康に対する関心が高まっていたのではないだろうか。平均寿命が上がる理由としては、医療の発達や環境衛生の向上が密接に関わる。平均寿命が上がると健康寿命に関しての意識が高まり、健康寿命を考えると予防の意識も強まる。そういったことがウォークラリーが全国に広まったキッカケになったのではないかと考える。

実際に参加してみて、簡易的な地図を読み取ることは頭の運動になり、チェックポイントでの問題も脳を活性化させる。また、見る・考える・課題をクリアするという過程では、必然と時間だけにとらわれることなく行動できる。このようなことが無理のない健康へ繋がるのだと感じた。また、個人ではなく、団体を行動することにより、問題解決能力を全員で向上させていくという連帯感。地図をもとに見知らぬ街を歩き、指定されたチェックポイント探し出す過程での分析力や判断力を養うこともできる。そして、仲間として結束ができ皆が皆を思いやる気持ちが自然と導き出されていき協調性が生まれる。知らない街での散策は発見が多く、港でイカ釣り漁船を皆で眺めて観察したり、マリン大橋では記念撮影をしたり、民家のメダカで話が盛り上がったり、歩く過程でお互いを知るためのコミュニケーションを自然ととっていた。おかげでタイム的には参加チームの中で1番遅かったようだが、その分、浜田の街と仲間との交流を十分に深め、当初の目的であった、「街や文化を知って楽しく行こう」「健康的に行こう」「協調性について考える」など、どれも自分なりに目標を達成できたのではないかと思えた。

まとめ

かつてとてもお世話になった町にも関わらず、ほとんど街のことも知らなかった私だったが、とても充実した時間を過ごし、街を堪能した。そして、なによりもグループで活動することによる

協調性の生まれ方を知り、そこに関わる自分の積極的な関わり、態度を改めて見直すことができ、チームに貢献できた喜びや皆で協力して終えた後の達成感はとても心地良かった。コミュニケーションや共同作業を通して、お互いの得手不得手もなんとなくだがかかってきた。得手不得手や性格等が分かると自然と分担や役割ができていく。得意分野では得意な人に活躍してもらおうと共に苦手なことに関してはホローし合うなど協力し、時には相手に合わせるという歩み寄りの姿勢も大切なのだと理解した。さらにウォークラリーには、心地良い気持ちで終わったことから、汗を流し、自然と触れ合う、仲間と触れ合うことにより、レクリエーションの効果があるのだと理解できた。はじめに運営側から目標を定めもらったことで、さらに自分の個人目標を設定することができ、ただただ楽しかったで終わらない中身のある時間を過ごせて大満足だった。イベント中、事故もなくスムーズに終わられ、会場に帰宅後も待つことなく結果発表や閉会式を迎えられたのは、運営されるスタッフさんの安全面を含めた企画運営までの念入りな計画と努力のおかげだと感謝した。全体を通してとても参考になり、勉強になった。反省点は、身体的にとっても疲れたので日頃の体力維持への関心を持つことが今後の課題であると考え

参考・引用文献・コトバンク Koto bank.jp

・Weblio 辞書国語 www.weblio.jp

・能力開発技法 noukai.tetras.uitec.jeed.or.jp

・厚生労働省 www.1.mhlw.go.jp

8月の予定

介護福祉科

夏休み

看護科

8月3日～8月19日夏休み

1年生集中講義 9・10日生活科学

20.21. 27.28日心理学

編集後記